

パソコン・スマホは便利だが危険が伴う

7月17日（水）、館林警察署のスクールサポーターを講師としてお招きし、6年生を対象に「情報モラル講習会」を行いました。児童は、2本のDVD視聴と講師の話から、“パソコン・スマホは便利だが危険が伴う、被害に遭わずに有効に使うためにどうしたらよいか”を考えました。

タイトル「自撮りした画像の送信」は、見知らぬ人とのメールのやり取りから、顔や全身の写真、さらに下着姿の写真を送信してしまい、恐喝される、という内容でした。講師からは、
・一度流出すると回収困難、
・危険なサイトにアクセスしない（子どもが巻き込まれる危険なサイト 例）出会い、アダルト、ギャンブル、薬物、コミュニティ）、
・フィルタリングの利用、
・困ったらすぐに、大人、警察、先生に相談 とお話しいただきました。

タイトル「メッセージに腹を立てる」は、グループチャットのやりとりから誤って解釈されるような文章を送信（「その映画おもしろくない。」「〇〇はなんて行くの」）したことから孤立してしまい、母親が担任に相談したことから、告げ口したと思われ突き飛ばされる（暴力）という内容でした。

講師からは、
・本当の気持ちが伝わるかどうか、メッセージの内容を確認してから送信（表情や声の調子が伝わらない）、
・一つ一つの言葉に注意が必要、もう一度確認してから送信、
・受け手は一方的に解釈せず、相手の気持ちを思いやる、
・チャットを利用したいじめや嫌がらせは、罪に当たるので絶対にしない（誹謗、中傷、悪口、うわさ話、傷つける言葉）とお話しいただきました。

そして、最後に、「自分は絶対に大丈夫と思わないこと」や「送らない、絶対に合わない、のせない、書き込まない、見ない、探さない、守る」のおぜのかみさまを忘れないことが大切であるとお話しをいただきました。



道徳などでもこのような授業をしてきましたが、ドラマで実際にあったことを元にしてやっていたので、あらためてインターネットの「こわさ・きけんさ」というものが伝わった。もし、「自分の写真を見せるから見せて」と言われても、「その写真を何に使うのか」と聞いたりして、たとえ知っている人でも送ったりしないようにしようと思いました。また、相手にごかいが生まれえないような言葉になっているか、確にんしてチャットでも送信したいと思いました。

私は、DVDをみて、悪そうなアプリや安易にアプリを入れないことと一度確にんしてから送信するということを学んだ。そして、SNSに写真をあげるとたくさんの人につながって、「返してもらおう」や「消す」ことはおずかしいことになっとくした。このことや講師の話「おぜのかみさま」を聞いて、私も決めたルールを守って使い、家族にもこのことを伝えたい。

私は、スマホは持っていないけど、母のスマホでLINEやゲームをするので、「気をつけよう」と思いました。特に、LINEでは、直接話すのとちがい、相手の表情も言い方も分からないので、送るときにはよく確にんして送りたいと思います。これから、インターネットを使うときは、きき感をもって、「おぜのかみさま」守って使いたいです。

